

Hello, from
Around the World

ALT通信

白河で活躍するALT（外国語指導助手）を紹介！



テイラー・マリー先生
(アメリカ合衆国・ニューメキシコ州)
☎本庁舎学校教育課 内2365

日常で役立つ英語を教えたい

みなさんこんにちは。前回に引き続きマリーです。わたしのふるさとでは、クリスマスに向けて道端や自宅の屋上にキャンドルを使った飾りがたくさん並べられ、街全体がとても幻想的になります。また、わたしはクリスマスソングを口笛で奏でることが得意です！

授業を担当している学校は、大屋小・南中・大信中です。感謝祭の文化を体験してもらったり、道案内など、実際に使える英会話を教えたりしています。白河市の子どもたちは、勉強にも部活にも一生懸命取り組んでいると思います。一緒に話ができる給食の時間は、とても楽しく、メニューが鶏の唐揚げの時はさらに嬉しいです！

英語の発音が上手になるためには、洋楽などを聞くと効果的です。カタカナで発音を覚えることは、あまりおすすめしません。最初は大変ですが、頑張りましょう！



▲大屋小での授業の様子

英語で一言！
If you can dream it,
you can do it!
「夢を持てば、叶えられる！」



白河を治めた大名に、松平（結城）家があります。松平家は白河に来る以前、寛文7年（1667）から天和2年（1682）の間、姫路藩主でした。勘助は、実はこの松平家の家臣、三田村家の出身で、隣の赤穂藩士中村家の養子となりますが、実家の三田村は転封で白河に移り、遠く離れてしまったのです。

《赤穂義士と白河》
間もなく迎える12月14日は「赤穂義士討ち入りの日」としてよく知られています。義士の中には、白河と縁のある者もいました。その1人が中村勘助（実名正辰）です。なぜ、白河と遠く離れた赤穂藩（兵庫県赤穂市）が関係しているのでしょうか。それは、白河が多くの大名が入り替わった土地ということに理由があります。



中村勘助像（昭和初期以前の絵はがきより）
（白河市歴史民俗資料館蔵）

白河と赤穂義士の縁
中村勘助
(1656~1703)

シリーズで学ぶ
白河歴史人物伝

Vol.20

文化財課 ☎2310



勘助妻の墓（関川寺）
昭和46年に発見され関川寺に移されたものです。関川寺には三田村家の墓も移されています。

《勘助の妻と子供たち》
討ち入りの年の元禄15年（1702）5月、勘助は妻子を引き連れ白河に来て、三田村家に彼らを預けて江戸に戻りました。そして12月に討ち入りを果たし、翌年2月、切腹を遂げました。48歳でした。勘助の切腹後、白河藩の親類は一時謹慎、妻子は藩内の別の親類に御預けとなりました。長男忠三郎（15歳）は成人として扱われて伊豆大島に島流しとなり、のち赦されませんが23歳で亡くなりました。次男勘次（5歳）も15歳になれば島流しとなる予定でしたが、出家し僧侶となることで赦され、のち松平家の菩提寺の僧となりました。妻は御預けを赦されて藩から生活費を受け、享保7年（1722）に亡くなりました。現在、墓が関川寺にあります。また娘は藩士に嫁ぎました。日本史との意外な関わりが見つかるのが、白河の歴史の楽しみの一つかも知れません。